

工場廃棄物減量化対策

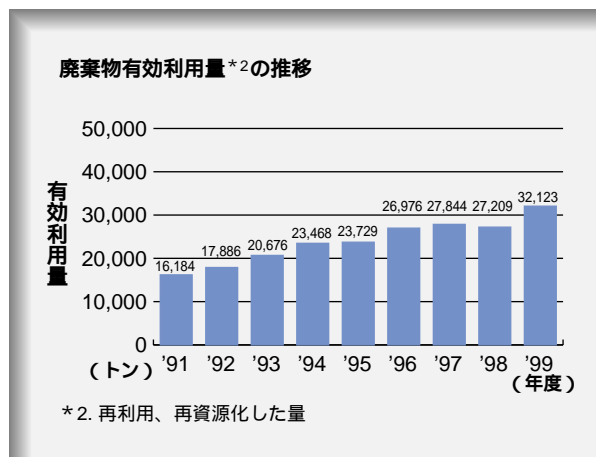
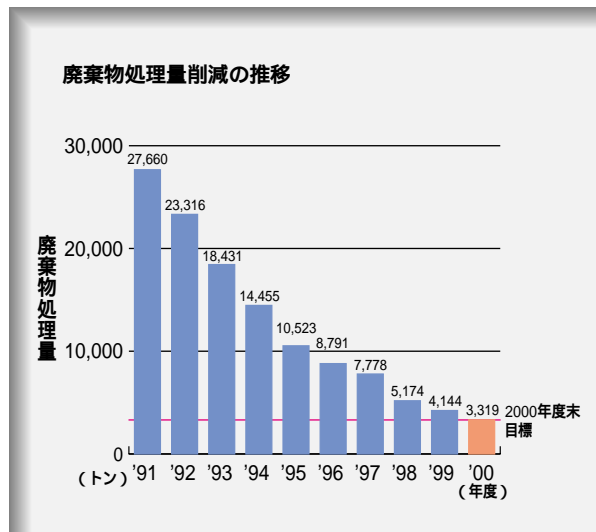
廃酸・廃アルカリ、紙くず、廃プラスチック、廃油などの工場から発生する廃棄物を対象に、2000年度末までに1991年度実績比で88%削減するため、廃棄物の減量化および有効利用に取り組んでいます。

工場廃棄物の削減実績

1999年度の廃棄物量*1は4,144トンで、前年度比19.9%削減、1991年度実績比では85%の削減となり、1999年度目標である83%削減を達成しました。

*1. 処理業者に委託した量

対象廃棄物	
廃酸・廃アルカリ	金属くず
紙くず	燃えがら
廃プラスチック	ガラス・陶磁器くず
廃油	木くず
汚泥	繊維くず



主な施策内容

廃棄物の発生元での減量化

- 廃酸の自社処理による無害化 鹿沼工場 (120トン)
- ふっ酸の自社処理による無害化 岩手工場 (124トン)

廃棄物の有効利用

- 塗料かす脱水汚泥のセメント原料化 ... 小山工場 (14トン)
- 廃プラスチックの燃料化 小山工場 (50トン)

設備投資

計6,300万円

- 廃酸の自社処理装置の工事(4,600万円) 岩手工場
- 廃プラスチック破砕機設置(690万円) 那須工場
- など

2000年度の主な実施計画

- 廃アルカリの焼却炉冷却水代替化 長野工場 (150トン)
- 食堂生ごみの有機肥料化の他工場への展開
- 南多摩工場、熊谷工場



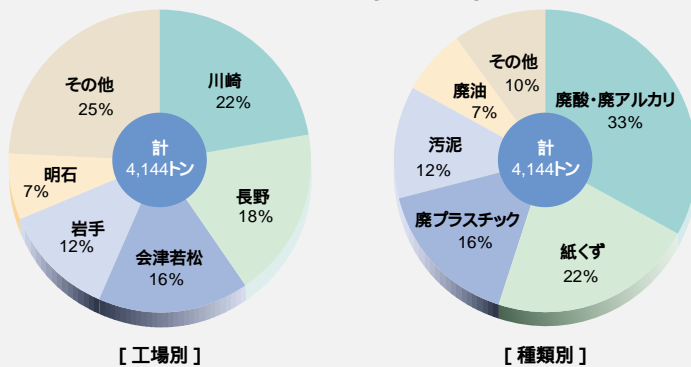
沼津工場長ごあいさつ

当工場では、2000年3月に社内工場では初めて廃棄物のゼロエミッションを達成しました。すでに製造工程から出る廃棄物についてはすべて有効利用していましたが、最後に残った社員食堂からの生ごみと、し尿処理など排水処理過程での有機性汚泥を有機肥料に変える処理機を改良することにより、達成しました。この有機肥料は、工場敷地内の庭園や畑で活用していますが、2001年度以降は工場周辺の農家に提供し、そこで栽培された野菜などを社員食堂の食材として使用する予定です。

沼津工場長 千谷 基雄



廃棄物量実態(1999年度)



ふっ酸の自社処理(岩手工場)

ゼロエミッションへの取り組み

2003年度末までに15工場・事業所でのゼロエミッション(廃棄物の100%有効利用化による埋め立てゼロ)に取り組んでいます。1999年度は、沼津工場および明石工場においてゼロエミッションを達成しました。



有機肥料生成システム(沼津工場)

ゼロエミッション対象廃棄物

- | | |
|-----------|---------------|
| 廃酸・廃アルカリ | 金属くず |
| 紙くず | 廃プラスチック |
| ガラス・陶磁器くず | 廃油 |
| 木くず | 汚泥 |
| 繊維くず | 動植物性残さ(食堂生ごみ) |
| 浄化槽汚泥 | |

食堂生ごみの有機肥料化による有効利用^{*3}

有機栽培農家と提携し、社員食堂の生ごみを原料とした有機肥料を用いて有機野菜(キャベツ4トン、レタス0.5トン)の栽培を行いました。栽培された有機野菜は食材として社員食堂で使用したり、従業員へ販売しています。

2000年度は、さらに野菜の種類と量を拡大し、充実を図ります。また、南多摩工場や熊谷工場をはじめ他工場にも取り組みを拡大し、全社的なリサイクル活動を推進します。

*3. 小山工場、沼津工場でも導入済み

食堂生ごみのリサイクル

